

令和2年度 学校関係者評価報告書 (評価対象期間 令和元年度)

令和2年6月
岐阜県立森林文化アカデミー

1 学校関係者評価の実施方法及び公表について

学校関係者評価の実施にあたり、令和2年6月19日に学校関係者評価委員会を開催し、「令和元年度自己評価報告書」について、自己点検評価の各項目に対する評価値とご提言をいただきました。多くの貴重なご意見やご指導に対して、感謝申し上げます。

その評価及び提言等について学内で検討を行い、今後の対応として整理しました。

評価結果について、本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、それらの質の保証と向上に継続的に努めるとともに、ホームページ等で公表します。

2 学校関係者評価委員

委員名	摘要	区分
谷 基 氏	岐阜県高等学校農林校長会 会長	教育関係者
川 邊 武 氏	中津川市森林組合 代表理事組合長	関連業界（林業）
美谷添 里恵子氏	白鳥林工協業組合 代表理事	関連業界（林産業）
石 橋 明 世 氏	ぎふの木に住まい協議会事務局長	関連業界（建築）
平 野 昌 彦 氏	岐阜県林政部林政課長	行政機関
伊 藤 栄 一 氏	NPO 森のなりわい研究所代表	学識経験者
長谷部 美紀氏	エンジニア科保護者	在校生の保護者
吉 田 理 恵 氏	2017年度クリエイター科卒業	卒業生

3 評価結果

(1) 評価項目ごとの評価値

評価項目	評価値	評価結果
1. 教育理念・目標	4	適切
2. 学校運営	4	適切
3. 教育活動	4	適切
4. 学習成果	4	適切
5. 学生支援	4	適切
6. 教育環境	4	適切
7. 学生の受入れ募集	4	適切
8. 法令等の遵守	4	適切
9. 社会貢献・地域貢献	4	適切
10. 国際交流	4	適切

※評価値：適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

(2) 評価項目ごとの意見及び対応方針

別紙のとおり

(3) 総評

学校関係者委員会では、10つの評価項目全てについて「適切」であると評価を受け、総合評価として「適切」であると評価をいただきました。

しかしながら、評価項目の中には、今後の改善に努める必要がある項目も含まれていると考えています。

今回の評価でいただいたご提言やご意見等を踏まえ、早期に改善可能なものについては今年度から実施し、中長期的な取組を要する事項については、効果及び実現可能性を検討の上、対応していきます。

令和2年度学校関係者評価委員会における委員の意見
それに対する本校に対応方針

評価項目	評価	委員の意見等	対応方針
(1) 教育理念・目標	4 (適切)	・明確にされている	・引き続きアカデミー改革方針に掲げた教育理念・目標の達成に取り組んで行く。
(2) 学校運営	4 (適切)	(特になし)	
(3) 教育活動	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の林業を学ぶ学生は、アカデミーで学べることを楽しみに受験している生徒も多く、きちんとした活動を行っていただいているからこそ高等学校としてもしっかり生徒を送り出すことができる。 ・授業アンケートに基づき、カリキュラムの見直しが行われている。 ・県内に高校以上の建築系の学校が少ないので、アカデミーに木造建築専攻があることはありがたい。工務店は、人材が不足しているため、是非アカデミーとつながりを持っていきたい。 	・引き続きアカデミー改革方針に沿って教育活動の改善・充実に取り組んで行く。
(4) 学習成果	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の追跡調査は行っているか。 ・今年のエンジニア科は41名の応募があり、不合格になっている人が多いとのことだが、どのように学生を選考しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度20周年行事を行うにあたり、卒業生名簿を整理し追跡調査を行って行く予定である。20周年を機に、卒業生や在校生のネットワークづくりを進め、学生の確保・就職対策につなげて行く。 ・定員20名に対して41名の応募があり、最初に推薦、その後一般入試で選抜した。できるだけ多くの学生を入学させたいが、学習の質の確保や教室などの物理的な制約から24名を上限としている。合格する最低ラインを決めている

		<ul style="list-style-type: none"> 全国的にも林業大学校が増えており、希望者が少ない年もあったという話も聞いていたが、それでも受験生が多いということは、すごく良くなってきたと理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> が、今年度は、例年より平均点が高かった。 希望者数は年により波があるので、来年度反動で減らないよう、しっかりと受験者の確保に努めて行く。
(5) 学生支援	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響により今後予想される就職への悪影響に対して学生への支援の強化を期待している。 子育てや介護や女性ならではの悩みを抱えながら通っている学生もいる。学生の男女比を見ると多い少ないはあるが、一定数の女性が入学しているのを考えると、今、男性の先生ばかりなので、女性の先生もいるといい。女性の先生がいると、模範になるし、女性が活躍できるという夢や安心感につながるので女性の先生の採用をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、企業説明会やキャリアカフェ等を行い学生の就職支援を図って行く。 女性教員がいないことは課題だと認識しているが、教員採用の際、性別を限定して募集することは困難である。今後は、女子学生の意見も聞きながら、学内の女性職員等とも連携して女子学生が活躍できる環境づくりを図って行く。
(6) 教育環境	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの第2波に備えた授業の確保など、遠隔授業への対応をしているか。 自販機を置いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月28日から5月末まで遠隔授業を実施し、一人の取りこぼしもないよう、ネット環境弱者の対応を行った。今後、現場実習の授業が多くなって来るが、第2波に備え、Wi-Fi環境のさらなる整備、現場実習に対応したコロナ対策に必要な資器材の導入を図って行く。 自販機の設置について何度か事業者募集を行ったが応札が無かった。熱中症対策として必要であると認識しているので、水分補給用器材の導入を検討する。
(7) 学生の受入れ募集	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 大学への3年次編入ができることを知らない学生も多いと思う。アカデミーで実学を学び、大学へ3年次編入して知識の厚みを増し、そして社会に出ていくという 	<ul style="list-style-type: none"> エンジニア科は現場の技術者を育てることを目標としている。大学への3年次編入については必要に応じて説明している。

		<p>ようなことをすればアカデミーの存在意義も高まるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3校連携の夏休みの3校見学ツアーは人気があるので、是非とも人数を増やしてほしい。 ・キャリア教育は、幼稚園や保育園へのアプローチはしやすいが、小中学校は難しい。是非とも一貫した教育体制を整備してほしい。 ・中高生に山や森、木に関心がない子が多い。学校に取り上げてもらいたい。 ・オンラインが進んだので、点ではなく、面で働きかけることができるのではないか。絶対ここに来なければだめだというわけではなく、オンラインでアプローチできるのではないか。いい情報を発信していけるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3校連携の3校見学ツアーは、農政部が所管なので要望があったことは伝えるが、今後はアカデミー独自のツアーも検討する。 ・小中学校へのアプローチは教育委員会を通じて行うため、継続して働きかけて行く。また、意欲のある小中学校でのモデル的な取組を積極的に展開し普及を図って行く。 ・フィールド活動だけでなく、オンラインを活用したコンテンツやプログラムも視野に入れて検討して行く。
(8) 法令等の遵守	4 (適切)	(特になし)	
(9) 社会貢献・地域貢献	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や様々な分野との連携という点で、「アカデミーの学生の活躍の場づくり」という観点はとても大切だが、そこにとどまらず「地域の人材の活用や掘り起こし」や「課題解決のための枠組みづくり」という観点でも、積極的に取り組んでいただきたい。例えば、地域課題解決に取り組む先行者との仕事の競合など、民業圧迫と受け止められている「地域の声」もあり、外部との共存共栄を目指した連携を取り組んで頂きたい。 ・県民に向けた公開講座などが積極的に実施されている。 ・ぎふの木フェスタのようなイベントに学生たちを参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生も各地域で活動しており、既に地域で先進的に取り組んでいる方々と連携するとともに、そうした方々のスキルアップにつながる役割を担えるよう取り組んで行く。 ・今後も県民に向けた公開講座を実施して行く。 ・様々なイベントに学生が参加できるよう案内を

		させて欲しい。	して行く。
(10) 国際交流	4 (適切)	・海外大学との更なる連携強化を期待している。	・引き続き、ロッテンブルグ林業大学等との連携強化を図って行く。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が基準に基づき全て満点なのは理解するが、アカデミーとしての課題と展望を示してほしい。 ・素晴らしい取り組み、環境に驚いた。 ・とても恵まれた環境で学ばせてもらえることを幸せに思う。 ・実践・学びが多い素晴らしい学校だと思う。学生のタイプの多様化、課題の多様化に素早く対応できるような学校であってほしいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の評価対象となった専修教育を含め、アカデミー改革方針に基づき目標を定め取り組んでおり、今後の評価において進捗状況を提示して行く。専修教育部門では、入口・出口対策が最重要だと考えており、引きつづき強化して行く。 ・外部の方々や学生の意見を聞きながら、教員と連携して臨機応変に対応して行く。

評価項目	委員の意見等	対応方針
専門技術者教育	(特になし)	
生涯教育	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県の木育は、木遊館とmorinosの2つで担っていくと考えているが、小中学校のプログラムが少ない印象がある。学校のカリキュラムにどう乗り込んでいくかが課題であり、あらかじめ学校が使いやすいプログラムを準備し、カリキュラムに取り込めるようにすれば学校側も受け入れやすいのではないか。事前に教育委員会と、学校の遠足や課題活動に使えるような戦略を相談したらどうだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校で使いやすいプログラムのパッケージをつくって、積極的に提案して行く。現在、新型コロナ禍で学校の授業スケジュールがタイトなため学校へのアプローチは控えているが、しっかり準備は進めて行く。
産学官連携(コンソーシアム)	(特になし)	

